

会議録

平成 30 年 3 月 20 日(火) 場 所 3 階 第 5 研修室

会 議 名：第 9 回総務・経済常任委員会

出席委員：平野委員長、佐藤副委員長、新井田委員、竹田委員、相澤委員、手塚委員
福嶋委員、鈴木委員、吉田委員、又地委員

欠席委員：なし

会議時間 午後 1 時 30 分～午後 2 時 55 分
事務局 吉 田、西 嶋

開 会

1. 委員長挨拶

平野委員長 それでは、定刻になりましたので、ただいまから第 9 回総務・経済常任委員会を開会いたします。

ただいまの出席委員は 10 名でございます、委員会条例第 14 条の規定による委員定数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

早速、本日の会議を開きます。

会議次第につきましては、配付しておるとおりでございます。

まず、各委員におかれましては、今回の常任委員会、ちょっと急な参集になったにも関わらず、全員出席いただきましたことをお礼申し上げます。ありがとうございます。

また、きょうは町の賑わいを現状作っている話題という調査事項でもありまして、傍聴人のかたが 4 名、5 名でしょうか、見えられております。きょうは、天気が大変寒い中、足を運んでいただきまして、ありがとうございました。

2. 調査事項

(1) <まちづくり新幹線課>

・企業誘致について(継続)

平野委員長 では、きょうは継続の調査事項であります企業誘致についてでございますが、当初、進捗があり次第、調査として常任委員会を開催するということだったので、議題のとおり昨日、17 日の新聞に大きく「木古内駅前に本格ホテル」という記事が載りましたので、このことについて町側からも調査をした上、説明をいただきたいということがありましたので、常任委員会を開催するに至りました。

早速ですが、北海道新聞社の記事についてということで、行政からの説明を求めたいと

と思いますが、福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 皆さん、お忙しいところ、大変ありがとうございます。まちづくり新幹線課でございます。

それでは、私のほうからは先日、企業誘致についての新聞報道について、ご説明を申し上げます。

資料のほうご覧ください。

先週土曜日の北海道新聞朝刊の記事でございます。内容につきましては、地元商工関係者有志が近く設立する会社が小樽や札幌でクラッセホテルを展開するアンビックスにホテル業務を委託するという内容でございます。

報道を受けまして、確認をいたしましたところ、記事は全て独自取材に基づくものでございまして、それでこの日の掲載になったということでございます。

近く会社が設立されるということでございますので、今後、事業内容等につきましては随時、情報を報告させていただくことといたします。

また、地元企業の皆様に対する支援策につきましては、庁舎内に「企業育成支援等プロジェクトチーム」これを立ち上げましたので、現在、支援策の内容を検討、協議しているところでございますので、これにつきましては一定の整理がついた段階で、皆様にご説明を申し上げます。以上でございます。

平野委員長 すみません、いまの企業プロジェクトチームの正式名称をもう一度お願いします。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 企業育成支援等プロジェクトチームでございます。

平野委員長 それでは、この新聞の掲載については、独自取材だということで、町は関わってはいないという、またその後このような情報が出たので、町は調査次第報告をさせていただくという旨の説明がありました。

各委員から質疑があればお受けします。

竹田委員。

竹田委員 いまのコメントでの確認ですけれども、これは道新さんの独自取材ということなので、これは北海道新聞さんのほうに問い合わせ、そうだということになったのかどうかをまず。

平野委員長 福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 道新さんの木古内支局に確認をしております。

平野委員長 竹田委員。

竹田委員 我々、この新聞の記事を見て、これだけ詳しい内容。ということは、会社というかホテルを建てたいという側でなければ、このような詳しい。例えば、この図面含めてないと思うのです。道新さんの取材ですからいろんな角度の中でしたと思うのですけれども、ただ我々議会も13日の予算、最終の議会の中でもせっかく反対運動等のこの調和が和らんできたというそういう雰囲気の中で、双方がそれぞれの意が町の姿勢等が伝わって、良いこれから円滑に進むのかなというふうに思っていたところなのです。それに、3月10日の町有地に一業者が無断で除排雪をした。そして、見方によってはこの道新さんの記事は、北海道新聞さんの取材での記事だということ、それはわかりました。だけれどもやは

り、あたかもその部分が連動するように見えるのですよね、どうしても。町は、知らぬ存ぜぬ。やはり町としても双方にいまこういう状況で、こういう動きをしているから、お互いに火花を散らさないようにという部分をやっているのかどうなのか。

それとやはり、3月10日の無断で行った例えば除排雪、これは13日の段階で当事者の会社のほうからの謝罪があったという。私は、単にこういう時点になれば単に謝ればいい、やってしまったほうが得だとみたいにも一面取れるのですよ。やはり町としてもその辺は、厳しい何と言いますか処置をやはり下すべきだと思うのですよ。これ例えば俗に言う、処分だとかそういうのをやればいいというものでもなくて、町としても反対運動をしているかたに見せるためにも、やはりこの無断でやった除排雪、とんでもないと。そのことによって、その当会社にこういう制裁をしましたという。そうすればやはり、反対側のかたにしてもいくらか「町も双方に同じく味方をしてくれた」というふうに思うと思うのですけれども、町長、その辺というのは例えば3月10日の部分は、謝罪をしたからそれで町とすれば「良し」と「良かれ」というふうな判断になっているのかどうなのか。町長のその辺の見解を。

平野委員長 町長。

大森町長 当事者には厳重注意しております。

平野委員長 あと、いま竹田委員から出た13日以降の調和策と言いますかその辺についての考えの問いもあったと思うのですけれども。

町長。

大森町長 直接質問として受けてはおりませんが、話の途中でそういうお話があったように聞いております。その話題については、議会のほうに説明をするということで、理解をいただいているというふうに判断しております。

平野委員長 何のほうに説明をする。

町長。

大森町長 議会にお話をするということで、皆さんにご理解をいただいていると思います。

私どものほうから、こちらのかたに、こちらのかたにというお話ではなくて、議会にお話をするということで、理解をしていただいていると思っております。

平野委員長 それは、ちょっと解釈が全然違うと思うのですけれども、13日の議会最終日の予算委員会の最後、休憩の中でもありましたが現状、我々は企業誘致に対して反対する何物でもない。町が潤うのであればそれについては、当然企業誘致の条例も可決したわけですから、ただ町民感情としてその反対の方々も多くいると。実際そのような陳情活動だったり署名活動があったのも事実で、様々な町の話題にもなっている中、その方達とやる方々の調和を町が図る必要があるということをし添えたじゃないですか。そのことについて13日以降、きょうまで一週間程度しかありませんけれども、どのような状況、何か進捗があるのか、あるいは現状の考えとして町長の意見があるのかということをお伺いしているのですよね。

町長。

大森町長 特別、双方にそのようなお話をしているという事実はございません。変化があった際には、議会にお伝えするというところで、理解をいただいております。

平野委員長 竹田委員。

竹田委員 やはり町長は、その辺が我々議会との認識とずれがあるのですよね。私は、13日の議会が終わったら即、双方にいま反対している方々には、いろんな例えば先に福田課長が言いました企業育成等支援プロジェクトチームの中で、いろいろいま支援策等も検討しています。相手にもこれ以上火花を飛ばさないでもう、やはり我々が言っているのは良いとか悪いではなくて、町を二分するような中で、将来に孫子の代までに、このしこりを残さないようにしてくれということを再三お願いしているわけだから、やはりそこに精力的に行動してもらわなければ私はだめだと思うのですよ。相手から何もこないからでなくて、町自ら、いま町もいろいろあれしています。だから、やはりお互いにいま片方は建設したい、片方は反対だという。もう相対なのです。そこをやはり折衷案含めて、あれするのが町の役目だと思っています。だから、例えばこの新聞には12月どうこうと出ましたけれども、私はやはり例えば双方の合意ができて、早くても6月・7月でなかったらまず物事は進んでこないだろうと。これから議会の委員会での議論だとかを含めれば当然、物理的な作業をしたってこの新聞報道のように、まず絶対ならないだろうというふうに私は個人的にはそう思うのですよね。ですから、その辺含めて町長がその双方の調和と言いますか打開策をどうとろうとしているのか。片方には、いまのプロジェクトチームの中で検討をしているから、それが煮詰まれば提示をしますよという部分だと思うのですけれども、その辺どうなのですか。

平野委員長 町長。

大森町長 竹田委員がおっしゃるとおり、いまプロジェクトチームで既存の事業所に対する支援策というのを協議しておりますので、それをお示しするということが大事なことだと思っております。

いま質問の中でよくわからないのは、私どもは議会に先に説明するというのが基本だと思っておりますので、その前にこっちの人にもこっちの人にもいろんなことを話をして調和を図るのだということは、私どもの仕事ではないと思っております。まず、議会にご説明をします。そして、いま変化が何もない中で、何をするのが調和なのかなかなか難しいのです。ですから、しっかりとした支援策を提示することで、ご理解をいただけるものと思っております。

平野委員長 暫時、休憩をいたします。

休憩 午後1時44分

再開 午後1時45分

平野委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。

竹田委員。

竹田委員 町長の考えがやはりこっちに目が向いているから、そうなのだろうなという気がします。ただやはり町長、陳情書を持って来た時にどうこうという町長からの回答をしたということですが、それで相手が理解してくれたのかどうなのかという部分がやはり一番大事なところじゃないですか。

平野委員長 町長。

大森町長 これは考え方の違いがありますので、いくら説明しても理解していただける部

分とそうでない部分があります。これは、仕方がないことだと思います。ですから、私の意見をお話して理解を求めたわけですが、それには全て理解していただけなかったかもしれません。

平野委員長 竹田委員。

竹田委員 ちょっと開き直りみたくなってしまえばますますこれ、せつかく接点が見えてきてもなかなか到達しないのではないの。私は、やはりその辺を心配するのですよ。お互いに歩み寄りというのは、必要でないのかなと思っているのですけれども。

平野委員長 町長。

大森町長 事実をお答えしているだけでございまして、開き直るとか争いを深くするとかというそういう気持ちではありません。

平野委員長 現状の町長の考えというのは、わかりました。ただ、我々はそこを一步踏み込んで、町長は日頃より町民のことを我が子だということをおっしゃっていますよね。町長の取り組みの一つとして、町内のかたが亡くなった時には、必ずお通夜に参列して、一人ひとりのことを思っている町長だなと思っていたのです。いまホテルが建つと、町にとっては良いことだと、大森町長も描いていた夢だという考えはわかりました。ただ、町長の子どもである町民がこれができることによって、大変苦勞する可能性がある。あるいは現状、心を悩ませているという状況があるのですよ。それに対して町長は、誠心誠意対応してくれているのですかということなのですよ。それが伝わってこない、我々には。ということですよ。

町長。

大森町長 伝わるか伝わらないかはわかりませんが、まずこの紙面で全てが決定したような捉え方をした質問が多いものですから、私どもは前にもお話しているとおりに、企業が設立されているわけでもなく、この計画をいただいているわけでもないわけですよ。その中で、条例等に対してホテルの噂話がありますから、それに対して反対をするという反対の署名をいただいたり、要請書をいただいております。その都度、私の考えを申し上げているのですが、それが全て理解していただけないという。それは、あるかと思います。

平野委員長 新井田委員。

新井田委員 いま竹田委員との内容とほぼ近いとは思いますが、いま町長からこの記事に対して、福田課長からも再三ちょっとまた元に戻りますけれども、独自取材だというようなことですが、そもそもいま町長がおっしゃったように、会社がないのに何でこういう記事が出るのだらうと。我々の憶測でいけば、これは当然行政も絡んでいながら、こういう情報を発したのだなと当然思うわけですよ。思って不思議ないと思います。

おそらくいま町内でワイワイガヤガヤやっている皆さんの中で、そうでないかもしれないという人は、そんなないはずですよ。これは、完全に行政の皆さんが皆さんと言えば変だけれども、行政の絡みの中で事が進んでいっているねと。そういう見方と私は大半だと思うのですよ。そういう流れで、やはりこういう出てくるという事態がそもそもいま町長が言ったように、会社が立ち上がって当たり前の話なのだけれども、こんな理由ってあるかなと思うのですよ。確かにきょうは、新聞屋さん来ているのですか。道新の記者さんにも確認したいけれども。函館新聞さんにも出ていたというような話も聞いていたけれども、違うのかな。そもそもそういう流れからいったら、どうも不自然。不自然とみられても仕

方がないと思います。我々が常に日頃から言ってきたのは、基本企業誘致そのものは反対じゃございませんと。ただ、いまの情勢の中からいったら、やはり町民感情を逆立てするようなことはしないでほしいということで、予算の部分でも然り。なお且つ、この委員会で継続審議ということで、何かあったらお知らせくださいと再三、言ってきているわけですよ。にも関わらず何か単独行動が出たり、いまみたいに単独の記事だよとか、そういうことがあまりにも間髪入れず出てくるのですよね。この辺もやはりどうなっているのだろうと。行政のほうだって無関係でないわけですから、この辺もやはり事実関係を事前に例えば雪投げも問題でもそうですよ。やはりそういう部分をこういう 5 社なんだか知らないけれども、そういうかたに軽はずみな行動をするなど、やるのだったらきちんと会社を立ち上げてから行動を起こしてくださいよと。そういうやはり言い回しも私は必要だと思うのです。そうでないとこんな出てきてからどうなっているのだ、また出てきた、どうなっているのだ、私知らない、私知らない。こんなんじゃとてもじゃないけれども、聞いているほうもとても違和感ある。言っているほうだって、何ら知らない間にこうやっているのだと。ここまでしたらそんな言い訳できないですよ。だから、やはり私の勘ぐりでは勘ぐりですよ、あくまでも。個人的な勘ぐりだけれども、これは行政もある意味じゃ納得の中で、こういうことが運んでいるというふうに私は思っているのだけれども、あくまでも我々は全く知らないことで、事が進んでいると。ただし、やはりいま町長がおっしゃったように、少なくともこういう部分が出てくるのであれば、やはりきちんとした会社のまず立ち上げが基本ですよ。そうでないと話が見えないじゃないですか、こんなもの。会社があって、こういう会社が声明を発表したというならいいのですよ。会社もないのに何でこういう記事が先行になるのですか。やはりこの 2 月の 7 日から、この期間まで予算委員会とかありましたけれども、行政はやはり何と云うか言葉が足りない。非常に悪いけれども。少なくともいま我々はこうやっているとか、ああやってこういう方向に進んでいるというのは、もっとやはりきめ細かく報告すべきですよ。決まっていないこともあるのだろうけれども、いま言ったようにこれ企業育成支援等プロジェクトチーム、良いことですよとても。こういうのはやはり事前に委員の皆さんとこういう動きをして、いま我々も一生懸命やっているとか、そういうのも改めてやはり細かく説明をしてくださいよ。それでないとこんな出てから、私知らない、勝手にやったことだ。あまりにもちょっと無責任じゃないですか。私はそう思うのですけれども、ちょっとその辺。

平野委員長 町長。

大森町長 どこまで私どもの説明を理解していただいているかわからないのですが、まず除排雪の件については、私どもも知らなかったことだということを再三申し上げているのですが、お一人お一人の質問になるとまたそれに振り返ってくる。そこは、理解して下さっているのかどうかかわからないのですけれども、私どもがわからなかったことだったものですから、それで嚴重注意をしたということでございます。ぜひ理解していただきたい。

それから、もう一つは新聞記事ですが、これも何か我々が記事を書いているみたいな話をしていきますけれどもそうではなくて、独自取材によって記事を書いて報道しているわけですから、これは我々止めるわけにもいかないですし、こんなの朝はじめてわかった話ですから、ここも理解していただきたい。

今度、内容です。内容については、私どもは一般質問でもお答えしていますし、様々な

機会でお話しているとおり、それぞれ経営者側、それから建てる人、こういう人達から条例についての質問を受けていますと。ですから、それには親切にお答えしていますと。ですから、それは理解をしていただいていると思うのですが、そういう情報提供はしている。

そういう情報提供の中からこういったのもあるでしょうし、特に一般質問の中で企業誘致の関係のお尋ねがありましたから、こういったのも記事になりやすいきっかけになっているのではないかと私は思いますし、ですから内容がここまで詳しくと。ただ、私なんかは本当にそうなのかなという部分はあります。それは、札幌に行ってオーナーとお会いした時に幾つかのプランを申し述べていましたから、そのプランと何種類かのプランがあったので、これを見るとそのうちの一つなのかなと。何もない中でのお話ですから、記憶だけですけれども。ですから、そんなので私どもも書類をもらってれば、皆さんにご提示してこういう記事になりそうだよということも言えるのでしょうけれども、残念ながらそこまでの記事が出るということも知りませんし、不自然とかそういう表現がありますけれども、何ら不自然な話ではなくて、マスコミにすれば当然の話で、様々なところから調査をして記事にするということは、これはあり得ることだと思いますので、何ら不自然だと思っておられません。

今後につきましては、とにかく一つの素案ができて、いまそのまともに入っていますので、既存の町内の事業所に対する支援策というのをしっかりとまとめて、皆さんにまた提示をさせていただくということを急いでおります。

平野委員長 新井田委員。

新井田委員 いま町長から答弁をいただきましたけれども、やはりこのいまのちょっとおかしいと言えば変だけれども、町長も言っていたけれども、この見出しの「12月完成」ということまで具体的に載っているわけですよ。そうであれば逆算しても、もういまからかからないと間に合わないのかなと素人の考えですよ。だから、そうだったらおかしいなと思ったら、例えば新聞社にものを申したのですか、行政から。これは本当なのとか。

平野委員長 町長。

大森町長 特段、道新に対してこの記事に対しての批判、あるいは何かおかしいとそういうことは言う筋合いもありませんので、しておりません。

平野委員長 新井田委員。

新井田委員 いま町長から道新さんのほうには確認していないし、言うべきものでもない。確認はしたのだろうけれども、確認の内容がやはり行政としてのこの内容を見て、これどうなのというぐらいの本当なのと。いま知らないとおっしゃるから、どうなのと本当なのと我々も知らないのだよねと、そのぐらい。この真意というものをやはり確認すべきだと思うのですよ。例えば、アンビックスさんに確認するとか。5人衆というのは、まだ何も会社でないわけだから。そのぐらいのやはり配慮はあってもいいのじゃないですか。

そうでないと説明できないじゃないですか。私は、町長が何も知らない間にということを行っているから、知らない間にこんなに詳しい内容になっているわけですよ。しかも町有地ですよ、場所が。それも知らないうちにだとか何とかと言うのもくどうですけれども、非常にちょっと何か雑というかざっくりというか、違和感あるね。

いろいろ水面下でどうのこうのということもないわけもないのかもしれないけれども、やはりこういう部分のとにかく記事に対しては、行政は行政なりに。ただ、単独取材です

よねということじゃなくて、これはどういうところから流れた情報ですかとか、町はここまでしか関与していないとか、こういう記事を流されるとやはりいろんな影響があるわけですから、その辺をやはりきちんと読まなければいけないと思います。読みが。だから、そういう部分であくまでも知らないというようなことで、突っ張るのだったら突っ張っても仕方がないけれども。だけれども、ここまで具体的に載ってきたら、そんな知らないとか何とかというようなことでは済まされないのかなと個人的には思いますね。答弁はだいたいわかりますので、答弁はいりませんけれども、私はそんなふうに感じました。

平野委員長 いま答弁はいらないということなのですが、新聞にこのようにほぼ確定という記事で載っているわけですよ。当然、新聞を読まれたかたは町民含めて、「木古内町の駅前にホテル建つことが決まったのだ」ということを捉えますよね。この記事だけを見ると。そうすると当然、町に問い合わせや聞いた時に、いまの答弁ですと「木古内町としてはわからないのですよ」という返事しかできないということですよ。それでいいのですかということなのですよ。なぜこれだけ記事に載ったのであれば、道新さんにどこからの出元の記事なのか、あるいはこのアンビックスさんの名前も出ていますし、アンビックスさんに問い合わせる。あるいは、この5人の起業されようとしている方々もご存じで、もう面会もされているわけですから、その方々に聞いてこの記事についての真意を確認するということが何でしないのだということなのですよ。これまでも福田課長は、企業誘致のこのことが決まってから様々な都市部も含めて、企業誘致の取り組みで一生懸命歩いて来ましてよね。その成果が2年間経って、ようやく今回は話が進んだと。何でこれまで決まっていなくてそれまで一生懸命行っているのに、決まりそうなところに、何でそういう細かい情報の収集に行かないのですか。それとも行っているけれども、個人情報なのでまだ書類が出てきていないので教えられませんということなのですか、どちらなのですか。二つに質問分かりますけれども。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 そこにつきましては、正式にこれまでも相談業務は企業誘致様々ございまして、相談業務には応じております。その中の一環ということで、このたびこれが前向きに進むということになりまして、まだ正式決定に至っているわけではございませんし、公表できるような情報というのは私どももまだ持ち合わせていないというのがこれが現状でございますので。

あと、先ほど新聞社への確認ということなのですが、この記事の内容については、ニュースソースがどうなのかということもお尋ねはしております。ただ、報道機関に関しましては、このニュースソースを明かすということにはなりませんので、そこはそのような回答をいただいているという状況でございます。

平野委員長 報道機関に確認してということばかり言っているわけじゃないのですよ。いま現在、先日から福田課長が木古内町としてはここまでの情報しか得ていませんということしか我々に報告していないじゃないですか。それ以上のことが出たのですよ、新聞に。

何でそのことを聞きに行かないかと先ほどから聞いているのですよ。それにまず答えてください。

(「関連」と呼ぶ声あり)

平野委員長 鈴木委員。

鈴木委員 私もその質問をしようとしたのですけれども、答える時にももちろん。

平野委員長 いまのだけ先に聞いてもいいかい。いまのことと合わせた関連で。

鈴木委員。

鈴木委員 行政側のいままでの説明の中で、流れは理解いたしました。ただ、行政と議会側が同じようなレベルの情報のもとに、このことは協議していくべきだと私は、基本的に思う部分でございます。

それで、この内容の中でこの新聞が出るまで、把握していた情報と同じもので、役場として把握していたものと違ったもの。これは、一つひとつもちろん精査されているかと思うのですけれども、ちょっとその辺一度整理していただければなと思うのですけれども。たぶんされているとは思うのですけれども、ちょっと細かい話になるかと思うのですけれども。

平野委員長 これは、公式な場でなくても町長が先ほど言ったように、アンビックスさんの会長さんと話してきたことと違うところもあるということも含めてということですよ。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 先ほどの当事者への確認ということでございますが、ここら辺に関しましては、相談業務は受けているということで、この相談業務につきましても、あくまでまだ正式決定に至っていないということで、この状況の中では私どもも守秘義務を負っている以上、いちいち相談業務の中味について、これをひけらかすということは、これはできないということは、理解していただきたいというふうに思います。それでもって今後、随時、議会のほうへの報告、説明等を正式な情報提供等あった段階で、順次行ってまいりますということを申し上げているわけでございます。

平野委員長 全然答えになっていないのですけれども、暫時、休憩をいたします。

休憩 午後 2 時 06 分

再開 午後 2 時 12 分

平野委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。

先ほどの鈴木委員の質問で答弁漏れがございましたので、福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 この記事の内容につきましては、我々が把握していたということで申しますと、内容はそれぞれが私が伺っている中では違います。全て合っているということではないと思って、私は拝見しております。

平野委員長 具体的に言いますと。

暫時、休憩をいたします。

休憩 午後 2 時 13 分

再開 午後 2 時 13 分

平野委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 以前、開催していただきました議員懇談会、この時に把握してお

りました例えば客室数ですとか宿泊者数、これは説明した内容と違っているというふうに思っておりますので、それ以上の情報は私ども持ち合わせてございませんので、そういった意味で申しますと、内容は違うということになってございます。

平野委員長 もう一つ答弁漏れと言いますか大事な部分です。先ほどから聞いているこのように町が木古内町の今後を左右するような観光の事業というわけじゃないですけども、ホテルの企業誘致に対して、一生懸命これまでやられてきた福田課長がいざこのように地元の方々を中心に進んでいるという事実は、もう相談の上わかっているわけですよ。これまで福田課長が把握していた部分以上の部分が出たと。じゃあ12月完成まで書いているから逆算すると、この間の10日の除排雪もすぐ工事に入らなきゃいけないからもう慌ててやったんだとかいろいろ推測されるのですけれども。じゃあ実際ここまで進んでいるのかどうなのか、じゃあいつ会社を立ち上げていつどうなのと。この記事はどこまであつているのと、どこまで違うのということを何で聞きに行かないのですか。その考えについて、きかせていただきたい。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 そこら辺の詳細の内容につきましては、会社が近々設立というふうには伺っています。この記事の中にもございますけれども、その後、その詳細な事業計画等については、提示があるものと思っておりますので、そこら辺については順次、議会のほうにもお示しするというふうに申し上げているところでございます。

平野委員長 ほか委員からの質問ありますか。

竹田委員。

竹田委員 1点、12月完成について、これはアンビックスさんの勝手な思いということで捉えていいのですね。

平野委員長 副町長。

大野副町長 記事に載った内容について、我々が承知をしていないこととございますので、お答えというのはアンビックスという名前を言われても、ここに書いているのは確かにアンビックスですから、そういうふうにお読み取りになるのはそれぞれの思いだと思います。

私どもには、住民の皆さんからこのホテル誘致に対して、町の助成金で誘致をしないでくださいという内容の要望が出ておりますので、以前の会議の時にも皆さんに話をしたのですが、きょう町長が申し上げておりますけれども、地元企業。地元の中小的皆さんのホテル、あるいは旅館業を含む中小企業の振興策というのをいま練っております。それをまとめて議会にお示しをします。これは、予算を伴う話ですから、議会に提案をしたあとに、それぞれの事業者さんへの説明をしてまいりたいとそのようなスケジュールでおりますので、いましばらくお待ちいただければというふうに思っております。

平野委員長 ほかございますか。

又地委員。

又地委員 いま常任委員会の事務調査にしましょうということで、議員の皆さんと相談した結果、総務・経済常任委員会の事務調査の中に入れるということにしました。その経過は、本当のことを嘘でない、本当の話を議会と行政と共有しようという約束のもとで、常任委員会の事務調査ということにしたわけです。だから、そういうことを考えれば、私は行政サイドから例えばきょうのことで説明があつたと。そうしたら、それを嘘だというこ

の常任委員会が嘘だと言ってしまうともう事務調査にも何にもならないと思う。だから、その辺を常任委員会と行政の間の腹合わせというよりも、本当の話だと思って常任委員会も聞かないとだめだと思ふ、その辺どうするのかなど。私もいろいろ聞いていて、あれも嘘だ、これも嘘だと端々に聞こえる。としたら、常任委員会の付託にならないよね、この事務調査は。それで、一等最初に行政にも伝えてあるけれども、本当の嘘のない本当の話を共有して、この問題は進めましょうということであつたはずなので、きょうはその再確認をもう一回お互いにしないとだめではないかとそんなふうに思うので。委員長、取り諮らい。

平野委員長 言うまでもなくそれは当然のことで、きょうも話のかみ合いがないが故に、それは違うだろうという話がありましたけれども、決して嘘を言っているだろうというようなことではないのです、各委員、私も含めて。それは、前回の言い回しと今回の言い回しが違うので、じゃあ前回はこういう見解だったのですかという部分はあつたのですけれども、それは嘘をついていただろうという話は一切ないと私は思いますよ。

新井田委員。

新井田委員 いま又地議長からお話があつたのですけれども、それを前提としているわけですよ。ただ今回、我々やはり情報が入ってこない中で、少なくともこういう情報が出た時に、行政は知らないかということ、これはあんまり芳しくないですよ。知らなかったら調べるのですよ、アンビックスさんに電話するのですよ。このぐらいの配慮しないといま言ったような言葉が出てくるのですよ。やはりそのぐらいの先ほど「配慮」という言葉に町長は、「配慮とはどうすればいいのだ」とかとちょっと言葉尻つかみましたけれども、私はそのぐらいあつてしかるべきだと思いますよ。別に何も嘘を言っていることじゃないですよ。だけれども、行政の関わることでこういう事実というか記事が載つたら、ちょっと電話して少なくともきょうの委員会で説明できるぐらいの配慮をしようとか、記者に電話したら守秘義務だからだめだと言つたら、アンビックスに電話してくださいよ。

本当にここで言ったのかどうか。そのぐらいのやはり説明をしてもらわないと非常に微妙な時期にこういう記事が出るということは、本当に。だから何回もくどいですがけれども、別にこの誘致に対することに関しては、ああでもないこうでもないと本来言いたくないのです。だけれどもやはり、流れの中であるいはタイミング、町の動き、こういうものをやはり総合すると大変申し訳ございません。声を少し大きくせざるを得ない部分があります。

申し訳ございません。それは勘弁してください。ただ、思いは一緒です。何回もくどいように言いますけれども、思いは一緒なのです皆さん。各委員は、思いは一緒。ただやはり、こういう委員会の中である程度、もうちょっと中味に触れた説明をいただければ、我々としても本当に先ほどくどいようですけれども、商工の振興策を考えているとかこういうことも言っているわけですから、こういう部分は非常に大事なことです。もう大いにやってほしいというふうには、当然思っていますので、その辺はちょっとご理解いただいて今後、やはりこういう問題があつた時は、ただ記事が出たのだから仕方がないよねということではなくて、もうちょっと我々のほうにこうやつたけれどもだめだつたのだよ。

やらないで説明にならないより、やつただけけれどもごめんなさいのほうが我々としては、やってくれたのだなという思いはありますよ。この辺は、次回につなげてほしいです。

平野委員長 ほかの委員から何かございますか。

相澤委員。

相澤委員 前に戻りますけれども、先ほど町長から名前が出ましたので、ひとこと。請願書が出る時点で私、オブザーバーとして実際に立ち会いました。その中で、お話を聞いていましたけれども、ちょっと話自体が来た業者側の人と何回か話をしたろうというような言い方はしていました。確かに受け取る側では、確かに会って話をしたことはしたと。けれども、そのひとことだったと。そういうような話なのですよ。それこそ気持ちを込めて、またこういうことをしてみないかいというだけでなく、もうちょっと一押し、もう一押ししても良かったのではないかなと思うのです。その辺でいまの反対している業者の方々、そういう思いがあるのですよ。その辺を特にくみ取っていただければありがたいなと思うのです。これからのことについても、それこそこう決まったから良いでしょうということではなくて、もうちょっと丁寧に言い方どう言えばいいのかわからないですけれども、丁寧に対応していつてもらえればありがたいなと思います。よろしくお願いします。

平野委員長 そこに関連するのですけれども、例えば先ほど町長が既存の企業の方々には、何度説明しても聞く耳を持っていただけなかったと。しかしながら、今回の予算委員会でも常任委員会の3月定例会の報告でも町民の方々から反対の声が出ていて、当然そのやるかた、反対のかたの調和を取ることが「必要不可欠」だという言葉でしめているのです。

そのためには現在、町長が話をしたけれども全然受け入れてもらえなかったと、話を聞いてもらえなかった。であれば、次の一手としてその町のプランとして、例えば文書に落とし込むだとか、もっと丁寧且つ真摯な町の対応とあっていいのじゃないかと思うのですけれども、いま現在このプロジェクトチームで支援策を考えていますよだけじゃなく、もう一步踏み込んだ人としての町長の思いやりの部分はあっていいと思うのですけれども。いかがですか。

町長。

大森町長 一番最良なのは、しっかりと支援策を提示して、みんなが使いやすいようなものであるということが大事かと思っておりますので、それに向けてまずは取り組んでまいります。

平野委員長 私、支援はもちろん大事なのですけれども、新しいものが建つのであなた達もこの支援を出しますから、これで頑張ってくださいじゃなくて、以前から町長がおっしゃっているような、そのホテルができることによって、観光客が数が増えて木古内町全体が良くなるのだと言っているそのまとめですよ。思い。それがそのとおりになくても。そういう思い描いているものをきちんと文章化して、こういう考えのもと企業誘致を進めているのですよということを示せないのでしょうかということなのですよ。

町長。

大森町長 いまは示しておりませんし、まずは支援策をしっかりと提示することが大事だと思っております。

平野委員長 全然、話がじゃあ考えが違うということですよ。

竹田委員。

竹田委員 町長の言わんとすることも支援策をいま検討していると。それを作り上げることが第一だと町長は言っているけれども、やはりその仕事は例えば副町長に任せて、町長はやはり双方にコミュニケーションを図るような、そして話、協議の中で何か接点がない

かという部分を見出して、場合によってはそのことも支援策に盛り込むだとか、やはりそういうトップセールスとしての役割を果たしていただきたいというふうに私達は期待するのですよね。ですからその辺、町長はいま企業育成支援プロジェクト、ここでいろんな支援策を練っているからそれが最優先でと言うけれども、そのことが相手に伝わらないのです。それは、内部でのチームを立ち上げているのだから当然代表がいて、たぶん副町長が頭で作業を進めると思うのだけれども、やはりそういう血の通った行政というかそういうのが逆に私は大事なような。それがやはり住民のいま二分になっている部分がだんだんどこかで折衷案というか接点が見えてくると。双方が良ければ議会だってもう二つ返事ですよ、まず。こういう議論をしないで。私はそう思うのですけれども。それやるかやらないかというのは、町長の考えですから、特に町長の考えがあれば示してもらいますし、なければ特に答弁は求めません。

平野委員長 いまの竹田委員の質問じゃないですけども、考え方についてのひとことあれば。特にございませんか。

又地委員。

又地委員 ちょっと新しい言葉が出てきたので、きょうはじめて聞く言葉で、「企業育成支援プロジェクトチーム」、きょうはじめて聞いた。これは、何をさせるのだろうと。話の端々をあれしていると例えば、町場ではホテル反対の運動もありますよという中で、そうしたら反対している人方に企業育成支援をするプロジェクトチームなのですよというふうに捉えていいのかどうか。ということは、先ほど副町長が言っていたけれども、その反対している人方の企業支援するために、予算もお金もかかりますよというような話なのだね。

そうしたら、このプロジェクトチームの中でいろいろ揉んだ話、揉んで議会にもきつと出してくるのだね。そのことが先ほど誰かが言ったように、例えば反対している人方に受け入れてもらえなければこれ何もならないし、あるいは議会でその予算をだめですと言ってもこれもだめだ。だからその辺、どんなふうに考えたらいいのだろうと。ということは、ある意味ではこの企業育成支援プロジェクトチームでいろいろ練るこの案というのは、いま反対している人方との折衷案だ。そんなふうに捉えていいのだね。折衷案。私はそういうふうに捉えるのだけれども、そういう捉え方でいいですか。だから、この企業育成支援プロジェクトチームに何をさせようとしているのかと。その辺がはっきり見えなくて、何となくそうしたら反対している人方に、オッケーをもらうための妥協案をこのプロジェクトチームに作らせるのだというようなふうにも聞こえる。その辺ちょっとはっきりしてください。

平野委員長 町長。

大森町長 現在、進めているのは既存の事業所。ですから、町内にある事業所ということになります。ただ、町内にある事業所というのは幅が広いものですから、出先機関もあれば地元の事業所もある。この仕分けの協議も並行して行っているのですが、その事業所がこれから事業を発展させるために、設備投資が主体になりますが、設備投資等で資金が必要な時に、町がどれだけ補助できるか、その条件はどうするか、こんなことをいま協議しております。結果として既存の宿泊事業所さん、こちらのほうも当然使える。そうでない事業所も使える、こういった協議をいまさせているところでございます。いまこの大型のホテル進出ということに不安を抱いている皆さんだけが利用できるというものではなくて、

全ての事業所が対象に。ただ、そこには商工会に入っているとか入っていないとか、規模がどうだとか本店がどこだとかとこういうややこやしい問題があるので、それを整理した上でお示しをしたいと思っております。

平野委員長 ほかございますか。

もう一度だけお伺いしますけれども、同様の部分はあると思うのですけれども。この支援策については、いまの町長の言葉では当然宿泊業、ホテルが進出されて困るという人だけじゃない、平等にやられると。その中には当然、既存の宿泊業者のかたも対象になる事業であるということは理解しました。このような施策も考えましたよということはわかりました。ただ現在、反対されているというか勘違いしたこともたくさん町場で話題として流れているのです。怪文書じゃないのですけれども、例えば企業誘致の補助に対して町の動きだとか、町長含め行政の動きだとか、ちょっと誤解を招くような内容のことも町で様々、話になっているのです。町長の先ほどからの話を聞くと、それは人それぞれ言うことは自由なのでとか、そういうのは噂話なのでと言うかもしれませんけれども、やはりそういうのが余計町を二分させるような要素になっているのも事実なのです。

だから、ある一定のところ、町の先ほど言ったような企業誘致に対しての考え方。当然、人口減少対策の一貫ですよということからはじまって、その企業誘致に出す補助金についての額も将来的な木古内のためになるための出資だという説明をどこかの段階でしなければいけないと思うのですよね。それがホテルを町として、ホテルだけに今回は企業誘致は限ったことじゃなかったのだけれども、結果ホテルがくるというような流れに現在なっていますけれども、その企業がくることによって町のプラスアルファの部分も先ほど言ったように、やはり既存のお店屋さんのプラスの部分も含めて、それがいうとおりにならなくてもいいですから現在、町長が思い描く今後の町。企業誘致を起爆剤としたまちづくりの説明する場所がどこかで必要だと思うのですけれども、私個人としての意見ですけれども。

町長。

大森町長 企業誘致の大切さは、従前から議論をしておりますし、そのことによって企業誘致条例ですとか基金条例を作っていたいただいたわけです。いまさら企業誘致が大切だという説明は、改めてする必要性は私はないと思います。ただ今回、新たにこういう動きがありましたので、私どもがしっかりとした情報を掴んだあとには、その説明はしなければならぬと思っております。

平野委員長 現状としての考えはわかりました。

ほか委員ありますか。

竹田委員。

竹田委員 町長、何かしつこくて申し訳ないのだけれども、先ほどあれしました除排雪の3月10日の出来事なのですけれども。これ、除排雪をやった事業所も謝罪に来ました。町からも厳重注意をしました。私は、やはり13日の日に行政側からそういうお話を聞きました。そのくらいは、当然と思っています。ただ、このいまの町を混乱するような出来事、ものの事の重大というか重要性を考えれば、何らかのやはり行政はペナルティなりを出すのかなど。過去に遡ってみれば町長、何件かやった例えば職員の分限の問題にしても、これこれの出来事でいろんな処分という形をずっと過去に取ってきたわけですよ。そういうこと等もあれすれば、私はただ先ほども言いましたけれども、処分すればいいというこ

又地委員 いまの 10 日に除排雪云々で入った業者が 11 日にも入っているのかな。それは同じ。

平野委員長 又地委員、休憩じゃないです。

暫時、休憩をいたします。

休憩 午後 2 時 49 分

再開 午後 2 時 50 分

平野委員長 休憩を解き、会議を再開いたします。

ほかに意見ありますか。

なければ、今後の進捗と言いますか予定なのですけれども、きょうのようにまた企業誘致について、何か動きがあれば町場から我々に報告と言いますかありますので、また日数がない中での常任委員会のすぐ開催ということがあるかもしれませんので、各委員には承知いただきたい。

あと、企業育成支援等プロジェクトチームの中身についての今後のスケジュールというのがいま現在わかれば、わかる範囲で、計画でもいいのですけれども教えていただきたい。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 これは、各課縦断した委員で構成しておりまして、可及的速やかにこの施策の取りまとめを行うということで、特にいつまでという期限は定めておりません。

平野委員長 目標みたいな期間とかないのですか。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 プロジェクトチームを立ち上げました。少しでも早く精力的にこれは会合を重ねて、取りまとめを行いたいということでございます。

平野委員長 とにかく早くという言葉が曖昧で、これまでも早くだとかというのが 1 年であったり 1 か月であったりなので、ある程度いま現在の目標の日時という設定はないのですか。例えば、そのとおりにかないにしても町場の言う早くというのは、いつぐらいを。

福田課長。

福田まちづくり新幹線課長 目標としましては年度内と思っておりますけれども、残りもう一週間ちょっとしかございません。4 月上旬には、遅くともこれは取りまとめたいというふうに考えて、私ども取り組んでまいります。

平野委員長 竹田委員。

竹田委員 せっかく支援策を練るのに、一週間・10 日でもわかにかつたってだめだつて。

十分やはり一番先に考えてもらいたいのは、町民の幸せ。木古内町の町が幸せになる、みんなが豊かになるというそういう部分を念頭に、十分時間をかけて作らなきゃだめだつて。一週間・二週間・1 か月でできるわけでないでしょう。1 か月も 2 か月も十分時間をかけて、相手があるとすれば、相手ともいろんな折衝を持ちながら、肉付けをしていくと。

そして、先ほどみんなから出されたように、折衷案で同意をして握手をします。そうすれば、ホテルもできるという道筋ができてくるのです。そういうことで十分、急いで作る必要はない。ろくなものがない。

平野委員長 竹田委員はそういう見解ですけれども、長くかけたからといって良いものができるのかということでもないですから。良いものを早い期間でできるに越したことはなくて。この一週間でやったというわけじゃなくて、その以前から当然考えていた話ですから、ただ竹田委員が心配しているのは、その間にいま反対をされている方々への話の調和が取れた後に、それを提案するのが理想だということを行っているのであって。ぜひ調和策は先ほどから大森町長からは、パッとこう前向きな発言は出てきませんが、この委員会としてはそのことは必ず申し添えておきますので、取り組んでいただきたい、大森町長含め行政の各位には。そのことを申し添えて、ほか意見がないようですので、以上をもちまして、第9回総務・経済常任委員会を終了いたします。

お疲れ様でした。

説明員：大森町長、大野副町長、福田まちづくり新幹線課長、田原新幹線振興室長
畑中主査

傍 聴：小野寺好秋、加藤義雄、小泉五郎、高橋雅弘、成澤宗範、大野 仁、平野嘉夫
報 道：函館新聞

総務・経済常任委員会
委員長 平 野 武 志